

広がる地域連携・協力の輪

自治体等との連携協定
伊勢市
名張市
みえ熊野学研究会
三重県総合博物館
三重県社会福祉協議会
明和町
公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
三重銀行及び 三十三総研(旧三重銀総研)
百五銀行及び百五経済研究所
三重県農業大学校
第三銀行
東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会
三重県及び伊勢赤十字病院
公益財団法人 三重県文化振興事業団
三重県教育委員会
伊勢商工会議所
三重県及び田中病院
鳥羽市
鈴鹿市
玉城町



6月28日に玉城町役場で開かれたキックオフミーティングには辻村修一玉城町長(前列右から3人目)をはじめ15人が集った

今年度、度会郡玉城町より「下外城田地区明るい未来づくりに関する調査研究」を受託する運びとなった。玉城町からの委託は昨年度の「玄甲舎利活用方策

調査研究業務(学内での研究名「対話によるまちづくりにおけるワークショッププロセスの研究」)に続いて二件目。

玉城町の受託研究で専門家らとタッグ

地域の活性化と人材育成を視野に自治体等と二十の連携協定を結んでいる本学。昨年度は地域や企業から地域課題の解決等を目的とする十研究を受託。今年度も玉城町をはじめ官民から委託されたプロジェクトが進行中だ。また、有志学生らが取り組んできた教育活動に寄付が寄せられるなど、地域連携・協力の輪がさらなる拡がりを見せている。

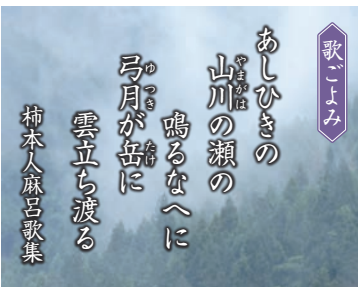
人口減少が比較的緩やかといわれる玉城町。しかし、エリアによつては急速な人口減少、少子化の傾向が見られる。本研究は定住やＵターン者の増加をめざす上ではまず、該当地域の住民に現状を知ってもらいたいと、鳥羽商船高等専門学校(鳥羽市)の中井一文准教授にご協力いただき、人口動態や地域課題等を「見える化」するWEBアプリを開発中。聖隷クリストファー大学(浜松市)の伊藤純子助教にはアプリに実装する健康指標につ

住民の「自己決定」をサポート

『人口減少時代の地域運営』は伊勢志摩にとどまらず、もはや全国的な課題」と話すのは、教育開発センターの池山敦助教だ。「本研究では『地域住民の自己決定を支援する』観点から効果的なプログラムを構築したい」と語り、「判断材料となるデータや実態について住民が楽しみながら、かつ的確に把握できるようにICTの活用や話し合いの場づくりに力を注ぎたい」と話す。なお、本研究は今年度二つのエリアをパイロット(先行)地域として実施し、それぞれ三回ほどワークショップを開く予定。次年度以降、他地域への展開も検討していく。

皇學館 学 園 報

第75号
平成30年 8 月



■注目記事

- アカデミック** 2面
特別寄稿 「讓位」と「即位」の儀礼
研究開発推進センター助教 佐野真真
- グローバル** 3面
英語教育プログラム受講者の声
満足度高く
- カルチャー&スポーツ** 4面
皇學館中学校
囲碁将棋部が西日本大会に初出場
- 特集** 5面
皇學館高校・クラブ特集
- 高中トピックス** 6面
「二見浦ビーチクリーン大作戦」に取り組んで
黒田結規さん(皇學館高校3年)
- 8面
駅伝競走部が出雲駅伝に初出場
- 連載** 3面
研究室探訪 Vol.25
日本文化ゼミ(菅野覚明教授)

「本読み子育て」活動を三重県民共済が支援

教育学部の中條敦仁准教授と有志学生による「読み聞かせ研究会」が取り組む「本読み子育て活動」に対し、三重県民共済生活協同組合以下、三重県民共済より支援寄付金が寄せられ、七月四日、贈呈式が執り行われた。三重県民共済の米山利夫理事は「子どもの健やかな成長のために親子の触れ合いが不可



「ハートプラザみその」にて読み聞かせを行う学生

欠。絵本の読み聞かせは体だけでなく心の触れ合いをも促すものであり、活動を支援したいと考えた」と寄付理由を説明。さらに「三重県民共済では今年、二十周年事業の一つとして『人づくり』をキーワードに人材育成や子どもたちの体験機会の創出に取り組んでいる。今回の支援が単なる子育て支援に止まらず、心豊かな社会の実現に寄与する『人づくり』につながれば」と期待を込めた。

中條准教授は「今回頂戴した寄付金を有効に活用し、まずは『ハートプラザみその』での読み聞かせを継続的に行いたい」と

この度、西日本を中心に甚大な被害をもたらした「平成三十年七月豪雨」で被災された皆様に、心より
お見舞い申し上げます。
学校法人 皇 學 館



「三重県民共済生活協同組合 寄付目録 贈呈式」
「三重県民共済としても地域社会への貢献事業としてさまざまな形で親と子の心が触れ合う子育て支援を広げたい」と語る米山理事長(右)

開催のお知らせ

参加無料・事前申込み不要

第4回皇學館大学地(知)の拠点整備事業公開シンポジウム

伊勢志摩で共に暮らし続けることの
ミライをかんがえあうシンポジウム

vol.4

開催日時 平成30年9月9日(日) 13時30分開始/16時終了

会場 皇學館大学 621教室

1部 13時30分 セレモニー 学長挨拶、COC概要及び進捗説明

2部 13時50分 シンポジウム フューチャーセッション

3部 15時30分 パネル交流会 学生や地域団体によるCLL活動紹介
「ファシリテーター」皇學館みらい対話団

お問合せ 皇學館大学企画部地域連携推進室 Tel 0596・22・8635

時代によつて物の名が
変ることがある▼万葉集
に載る山上憶良の秋の七
草の歌がある。「萩の花
尾花葛花 なでしこが花
をみなへし また藤袴 朝
顔が花」(巻8・一五三八)
▼この中で「朝顔が花」
は現在の桔梗であるとい
う。その根拠となってい
るのが九世紀末の辞書
『新撰字鏡』の記事である
▼そこには「桔梗 六月
に根を採りて曝し干す。
あさがほ」とあることに
よる。今でも桔梗の根は
去痰作用のある漢方薬と
して用いられる▼一方で
十世紀前半の辞書『倭名
類聚抄』では「牽牛子」
に「あさがほ」の読みが
あてられる。古今和歌集
には「けにごし」が見え
る。これは現在の朝顔と
同じものだが、強い作用
のある下剤用の漢方薬と
して渡来したものである
▼花を観賞するようにな
ったのは江戸時代からで
、貝原益軒は、肥えて葉が
茂ると花が見えず、やせ
て葉が少ないほうが見好
いので、やせ地に植える
べしと説いている(花譜)
▼朝顔の名が桔梗から牽
牛子に替わったのは朝の
うただけ花が開く生態に
よるものだろう。名付け
に合理的な解釈を求める
のは今も昔も変わらない
言語感覚であるらしい。



世界遺産 熊野・那智にて 文学散歩

国文学科



6月24日、今年度は「世界遺産 熊野・那智」と題し、平成16年に世界遺産に登録された熊野古道の一つ「伊勢路」を巡りながら、和歌山県的那智の滝を目指した。参加したのは学生29名、卒業生1名、教職員7名の計37名。バスに乗り込んだ一行は、最初の目的地である熊野古道センターを見学した後、花の窟神社に向かった。花の窟神社は、日本書紀にも記されている日本最古の神社で、約70メートルの巨巖をご神体とする。何度かニュースなどで目にしたことはあるが、想像していた以上に壮大なものであった。その後、新宮市の徐福公園を経て、最終目的地的那智の滝に到着した。現地の方によると、数日前の雨の影響で水量が通常の3倍であったとのこと。そんな激しい滝の流れを前に、かつて「木のもとに住みける跡を見つけるかな那智の高嶺の花を尋ねて」と詠んだ西行の姿を想像した。文学の世界を満喫した一日であった。

史学会講演会を開催

国史学科

本学史学会恒例の、学外研究者を招いての講演会が6月28日、東京大学史料編纂所准教授松方冬子先生をお迎えし、「約条・



契約から条約へー江戸時代を素材に世界史を語ろうー」との演題で開催された。松方先生はご実家が徳川御三卿の一つ田安德川家で、元老松方正義の子孫に嫁がれた方である。

今回の講演では、近世初期から幕末までの外交文書を中心に、徳川家康らが発給した邦人への海外渡航の許可証、外国人に与えた日本国内における権利を認めた個人宛の文書の効力が、発給者と受領者との間で食い違った認識を持っていたことを明らかにされた。また、次第に外国人に関する幕府の御触れが広い範囲に示されるようになり、幕末には列強と、国と国との条約締結へと進み、条約締結国同士の国民に効力が及ぼされるようになったという。外交文書も、宛先によって持つ意味が変わったりするので、十分読み込むのが大事であると強調された興味深い講演であった。

第50回現代日本塾 「現代日本の子どもをめぐる 法的問題」開催

現代日本社会学科

6月21日に開催された第50回現代日本塾は、「現代日本の子どもをめぐる法的問題」と題して、大阪教育大学教授・和田隆夫先生にご講演いただいた。近年、子どもをめぐる様々な問題が生じている。本講演は、何歳までが子どもなのか、との問いに始まり、運賃や入場料、できることできないこと、年齢区分が細かく定められていること等に触れた後、中世から現代に至る子ども観の変遷について解説。また、社会問題になっている「戸籍のない子ども」について、実態は表面に表れている数の何倍にもものぼると指摘された。ともすると私たちは子どもに係るセンセーショナルな事件等に目を奪われがちであるが、その根底には、親の問題が存在していることがわかる（DVや育児など）。現代社会が抱える問題として強く意識させられる講演であった。



今後の大嘗祭、皇室の御代替わりに関する講演会やシンポジウムなどの展開について

本年9月1日から10月8日まで、京都の細見美術館で開催される特別展『京都の御大礼―即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやび―』に、本学の所蔵資料である「小原家文庫資料」と寄託資料の「鈴鹿家資料」から、江戸・明治・大正・昭和の各時代の即位礼・大嘗祭に関する貴重な資料が、約80点出陳予定です。

また、神道研究所では、来年(2019年)12月に、今回の天皇陛下の譲位(退位)から皇太子殿下の即位、そして11月に行われる大嘗祭まで一連の皇位継承儀礼を総合的に考えるために、シンポジウム「皇位継承儀礼を考える(仮)」を企画しており、今回の講演講師の岡田莊司氏(國學院大学教授)をはじめ、所功氏(本学特別招聘教授)・藤森馨氏(国士館大学教授)などの登壇を予定しています。

天皇陛下の譲位による御代替わりまで、一年を切った。御譲位は、文化十四年(二八一七)の光格天皇の御譲位以来約二百年ぶりのことであり、明治以後の立憲君主制のもとでは初めてのことである。

今後は、「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」に基づいて、平成三十一年四月三十日に天皇陛下の譲位(退位)、翌日の五月一日には皇太子殿下の即位(踐祚)が行われ、秋にかけては即位礼正殿の儀(十月二十二日)、大嘗祭(十一月十四日夕刻)十五日未明)が行われることが予定

されている。

さて、先の法律の名称、及び条文においては、「退位」の文言を使用している。これについて天皇陛下は、その意向を初めに示された折には「譲位」の語を用いられたと伝えられている。史料の上からは「位をゆずる」を意味する「譲位」が一般的であり、これまでの譲位の事例は、天皇の意志に基づいて皇位が譲られていた。「退」の用例は、淳仁天皇廃位の時のみに用いられた特異な例であることに注意する必要がある。

本年四月三日の閣議決定にお

特別寄稿

「譲位」と「即位」の儀礼

研究開発推進センター助教 佐野真人

いて、皇位継承に係る諸儀礼の基本方針が確定した。四月三十日には、天皇陛下が御退位前に最後に国民の代表に会われる儀式として「退位礼正殿の儀」、五月一日に皇太子殿下の御即位に伴い剣璽等を承継される儀式として「剣璽等承継の儀」、御即位後初めて国民の代表に会われる儀式として「即位後朝見の儀」が国事行為である国の儀式として行われる。

に建てられた大嘗宮において行われる。

この他にも関連の儀式・祭祀が多く行われている。これは、戦後は廃止された『皇室登極令』及び附式に準拠して斎行されていく。

皇位継承儀礼は、我が国の本

義にも関わる最も重要な儀礼である。御代替わりまで一年を切り、再び皇位継承儀礼が注目をあびる中で、多くの人々が正しい知識を身につけ、来年の大嘗祭の斎行まで、一連の皇位継承儀礼がつつがなく執り行われることを願う次第である。

神道研究所公開学術講演会

「大嘗祭―天皇祭祀権と在地性―」を開催



本学研究開発推進センター神道研究所では

関係祭祀論、⑤古典籍継承論があげられ、古代の祭祀は、①地域・氏族祭祀論と②国家・天皇祭祀論の二重構造になっていることを指摘された。それは大嘗祭においても例外ではないこと、また、平安時代以降の大嘗祭の様子を知り得る文献にあたり、大嘗祭の最も重要な所作は、天皇が神に

対して神饌を御親ら供せられることであり、戦後から唱えられている秘儀は存在していないことを指摘した。

この講演会の内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第六号(平成三十一年度刊行予定)に掲載されるので、あわせて参照されたい。

佐野真人記

半田美永氏が名誉教授に

文学部国文学科特別教授の半田美永氏に本学名誉教授の称号が授与された。

和歌山県出身。昭和四十六年に本学国文学科を卒業。昭和五十三年に本学大学院文学研究科国文学専攻博士課程単位取得満期退学。



6月18日、名誉教授称号授与式が執り行われた

学外においては解釈学会常任委員、正岡子規研究会理事、国際熊野学会常任委員、日中比較文化研究会理事を務め、学界に貢献。平成二十二年には中国河南師範大学客座教授の称号を受けるなど日中の学術交流にも精力的に取り組んでこられた。

熱心な指導で知られる氏は教育者としてもとより、日

本近代文学、日中比較文化における研究者としても多大な功績を残されている。特に紀伊半島に関わる文人については『劇作家阪中正夫―伝記と資料』(和泉書院、昭和六十三年)、『佐藤春夫研究』(双文社出版、平成十四年)などがあるほか、『近代作家の基層―文学の(生成)と(再生)―序説』(和泉書院、平成二十九年)等著書多数。歌集『中原の風』(短歌研究社、平成二十年)を出版されるなど、歌人としても活躍されている。

グローバル

地域に根付け! 3活動が継続中 平成30年度チャレンジプロジェクト

学生が主体となって地域連携や学内活性化をめざす「チャレンジプロジェクト」。今年度は3チームがこれまで実施してきた活動をさらに充実させ、取り組む。



三重県総合博物館での実験教室・皇學館高校他1校での出前授業の実施

サポート教員／中松豊教授
代表／長嶋志帆(教育学科4年)

地元の食材を、知ろう、作ろう、食べようプロジェクト

サポート教員／駒田聡子教授
代表／中世古祥恵(教育学科3年)

伊勢・本のまちプロジェクトVol.4 ～第4回伊勢河崎一箱古本市とビブリオバトル～

サポート教員／岡野裕行准教授
代表／三木彩花(国文学科3年)

3プロジェクトが始動 平成30年度おかげキャンパスプロジェクト

「伊勢志摩百物語～渚と浜の物語～」(仮題)の編集・刊行

教員／田井健治・櫻井治男 実施期間／H30.6.1～31.2.28

学生が中心となり伊勢志摩地域の名所・旧跡・文化資産・自然遺産の魅力を明らかにし、冊子にまとめ発信してきた「伊勢志摩百物語」シリーズの第4弾。1500部刊行予定。

勢和の空の下で本を持ち寄り語り合う BOOKピクニックを開催プロジェクト

教員／岡野裕行 実施期間／H30.6.1～31.1.31

古本屋やブックカフェなど、本にまつわるブースのほか飲食店ブースも並ぶ「BOOKピクニック」を多気町営施設ふれあいの森にて開催(9月30日実施予定)。本・人・地域がつながるきっかけを創出する。

図書館を楽しく活用する方法を みんなで見つけ合って育てるプロジェクト

教員／岡野裕行 実施期間／H30.6.1～31.1.31

「①検討」と「②実践」の2つのワークショップで進めるプロジェクト。本や図書館の可能性を広げるべく、読書に興味を持つ小中学生やボランティア、本学「ふみくら倶楽部」の学生たちが読書振興を促すアイデアを検討し、実践する。

教員をめざす中で英語の重要性を感じてはいたものの、苦手意識があり何から手を付けていいのかわからない状態にありました。しかし、アドバイザーの方々に相談しながら具体的な目標を設定できたおかげで、何をすべきかが明確になり、勉強に身が入るようになりました。また、解けない問題を分かるまで説明してくださったり、発音も一字一句確認してくださるなど、どのような内容でもきめ細かく親身になってサポートしてくれます。堅苦しさも全くなく、気軽に楽しいたため今では毎週通っています。少しでも英語を上達させたいなら、ぜひ利用してみてください。



目標設定に発音・文法、勉強法まで
どんな悩みも親身にサポート

教育学科1年 柴野 真 希さん

英語学習アドバイザー
「百船」グローバルラウンジにて常駐

真のグローバル人材の育成をめざす本学では、多彩で実践的な英語教育プログラムを多数提供している。プログラムに対する学生の満足度は概して高く、資格取得や語学スキルの向上に優れた成果をあげている。今号では受講者から寄せられた声を紹介する。

英語教育プログラム◆受講者の声 満足度高く

古閑敦子アドバイザーより

英語は英語圏だけでなく、世界を知り視野を広げる上で欠かせないコミュニケーションツール。今、身に付けた英語力が皆さんの未来をより豊かなものにしてくれると確信しています。英語学習に関する悩みや疑問があれば、ぜひ一度相談にお越しください。一緒に問題を解決し、目標に向かって前へ一歩踏み出せるよう、全力でサポートします。



英語村

「百船」グローバルラウンジ英語村にてお昼休みに実施

自信がなくても大丈夫!
自然な会話表現を楽しく学べる

国史学科1年 浦川 倫 瑠さん

リスニングとスピーキングの能力を上げるため、参加しています。プログラムでは一つの題材について英語で話します。授業のような堅苦しさはなく、明るい雰囲気の中で楽しく学べるのでとても気に入っています。また、講師の方々が拙い英語でも親身になって耳を傾けてくれるので、自信がなくても話そうという気持ちになりました。実際に会話をすると、教科書には載っていないネイティブ表現まで身に付きます。ぜひ一緒に頑張りましょう!



上嶋庸之先生より

本プログラムではTOEIC試験の攻略法だけでなく、自分に合った学習法を身に付け基礎力の底上げを図ります。私自身の経験から、英語力を伸ばすにはまず「発音」です! 日本語にはない口の筋肉を鍛え発音を徹底マスターしましょう。そして、英語を通じて世界の人々と交流し、視野を広げてもらいたいのです。



TOEIC対策講座(五百点目標)
春学期計十四コマ開講

国史学科3年 松下 翠 里さん

単語テストのおかげで語彙力が付き、読むスピードが速くなりました。ネイティブの発音を学ぶうちにリスニング力も養えます。また、各パートの特徴や要点を覚えてくれるので効率的に勉強でき、攻略法が分かると問題を解くのが楽しくなってきました。独学でのスコアアップは難しいと思うので、ぜひ受講してください。先生は全力でサポートしてくださるし、周りが頑張っている姿を見ると励まされます。九十分の授業があつという間に過ぎますよ!



リベラルアーツ教育で 養った柔軟な思考を 実社会に生かす

本ゼミでは、日本文化のさまざまな事象を、幅広い文献にもとづいて探究し、日本人の世界観や価値観の諸相を明らかにすることをめざしています。三年次においては、主に武士の思想に関する基本的な文献を講読し、古典テキストの解釈、文献実証の方法などの基本を身につけながら、武士のものの考え方を形づくるさまざまな要素について検討しました。それらをもとに、四年次では卒業論文執筆に向けて、各自のテーマの設定、研究史の確認、主題となるテキストの精密な読解などを、発表形式と個人指導を交えながら進めています。

ゼミ生が選択する卒業論文のテーマは、実にさまざまです。『葉隠』や『五輪書』、あるいは赤穂義士仇討ち事件についての儒学者たちの論評など、武士の思想を直接に扱うものも、もちろん多くあります。日本における刀剣の信仰や、武士の崇敬を集めた神社の研究など、武士と神道の関係へと発展したテーマもあります。また、三年次に身につけた方法にもとづいて、日本人のものの見方、世界観・価値観を具体的文化事象に即して研究するゼミ生もいます。日本人の動物観や、妖怪イメージの研究などはその一例です。



近年、企業人の再教育において、リベラルアーツが一つのブームになっております。実際、上場企業のリーダー研修などでは、思想、歴史、文学、宗教などのテーマが花盛りで、私自身も、日本神話、禅の思想、『遠野物語』、

「日本文化学」ゼミは配布された資料について自分の考えをまとめ、発表する授業形式です。発信力やプレゼン力が鍛えられるだけでなく、様々な意見や見方があることを知り、視野が広がりました。また、武士についても固定されたイメージにとらわれることなく、理解を深めることができました。今後は、困難なことがあっても菅野先生の「辛抱強くやり続けられれば必ず報われる」との言葉を胸に刻み、武士の如く果敢に立ち向かっていきます。

多様な意見を知り、
視野が広がった

神道学科四年 中野 公平

日本文化学ゼミ
[指導]
菅野 覚明 教授
神道学科(神道史)



夏越大祓式に40名が参列



6月29日の夕刻、祭式教室において夏越大祓式が執り行われ、およそ40名が参列した。大祓とは日常生活で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを祓い、本来の清らかな姿に立ち返ろうとする神事。全国各地の神社で6月と12月の晦日に行われている。今回の大祓式では、まず祭式研究部員が大祓詞を宣読。その後、人を象った形代に各自、息を吹きかけ、自身の罪や穢れを移し、また、大麻によって心身を清めた。祭式研究部の内堀詔太さん(神道3年)は「昨年に続き、2回目の夏越大祓式を無事執り行えたのは多くのご賛同、ご支援があったからこそ」と感謝の気持ちを述べ、「この大祓式によって少しでも神道に興味を持っていただけたら」と話した。

全国高校総体行進曲を 皇高吹奏楽部が演奏

三重県を中心に東海で開催される「2018彩る感動 東海総体」の式典曲「Millaie(未来絵)」を皇學館高校吹奏楽部が演奏。スポーツの祭典の始まりにふさわしい華やかな音色で総合開会式を盛り上げた。部員の河井花音さん(3年)は「三重県に縁のある宮川彬良先生の作曲で、聴いた人が明るくなるような希望に満ち溢れた旋律です。作品の魅力を引き出し、選手やスタッフの方々に『頑張ろう!』と思っていただけるよう、部員全員が心一つに演奏しました」と笑顔で話した。

10名が入賞! 大会新樹立も 伊勢市中学校連合陸上競技会

第68回伊勢市中学校連合陸上競技会が6月7日に開催され、本校は10種目10名が入賞。藤田晃輝さん(3年)が110mハードルで大会新記録を樹立するなど大活躍を見せた。今大会、初挑戦した砲丸投で7位入賞と健闘した西野晃綺さん(3年)は「初めて5キロの砲丸を持ったとき、『こんなに重いものを投げられるの?』と感じましたが、顧問の先生に指導していただき一気に距離が伸びました。気楽なチャレンジが砲丸投との出会いにつながり嬉しいです」と喜びのコメントを語った。



3Aチームが総合優勝 皇學館中学校バレーボール大会

3年生にとっては中学最後となる校内バレーボール大会が7月5日に行われ、熱戦が繰り広げられた。3年A組の久保侑熙さんは「男女の区別なく仲が良いクラスなので試合中も互いに声を掛け合い、大きな声で声援を送りました。『いいクラスだな!』と再認識できた大会でした」と話し、3年B組の森琴音さんは「『絶対優勝!』と思い頑張ってきました。試合終了直後はみんながそれぞれの涙を流していて、充実感いっぱい、心に残る思い出になりました」と語った。結果は次の通り。

総合優勝	男子優勝	女子優勝
3 A	3 A男子	3 B女子

Culture & Sports カルチャー&スポーツ

悔しさ胸に雪辱誓う

平成30年度全日本学生柔道優勝大会

六月二十三日、二十四日に日本武道館で開催された平成30年度全日本学生柔道優勝大会(男子六十七回、女子二十七回)に本学柔道部男女が揃って出場。男子は専修大学を相手に三十一で一回戦敗退、女子は松山東雲短期大学に〇―三で勝ち二回戦に進むも、慶応大学に二―〇で敗れ、三回戦進出とはならなかった。

「選手たちのポテンシャルはこんなものじゃない。すべては私の戦術ミス」と苦しい胸の内を語るのは佐藤武尊部長だ。しかし、収穫もあった。一つは、ケガや故障、調子が上がってこないなど万全のコンディションとは言えない中、部員全員が一枚岩となつて乗り越え、当日を集中して迎えられたこと。二つには、試合に敗れた選手たちが心の底から悔しがっていたこと。佐藤部長は「裏を返せば、本気で優勝を狙っていた証拠。本番に向けてやれるだけの準備をしてきた彼らには、自分たちならできる」という自負があり、実際、それだけの力を持っているチーム」と話す。さらに「本学柔道部は仕事人集団として互いに認め合っており、強い絆で結ばれた仲間であつて単なる『お友達集団』ではない。良い意味での緊張感の中、一人ひとりが日本一をめざして自分の仕事に取り組んでいます」と熱く語った。



八月後半には長野県の富士見高原で高地合宿を行い、八月二十六日に愛知県武道館で開催される第三十七回東海学生体重別選手権大会、第三十五回東海学生女子柔道体重別選手権大会に備える。「日本の柔道界をひっくり返す」を合言葉に前だけを見てきた彼ら。雪辱なるか、注目だ。

斉藤さちさん、 玉野友香理さんが全国大会へ!

皇學館高校・剣道部女子

七月十四日に日本武道館で開催された「第十回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会」に三重県代表チームの先鋒として斉藤さちさん(二年)が出場。また、九月二十三日にホワイティング長野市真島総合スポーツアリーナで行われる「第五十七回全日本女子剣道選手権大会」に三重県初の高校生代表として玉野友香理さん(三年)の出場が決定した。

「県代表の先鋒として常に前に攻める気持ちを強く持ち、臨んだ」と話す斉藤さん。三回戦敗退となったが、「全国のトップレベルの選手と戦う中で、一瞬の気の緩みが勝敗に大きく関わると感じた。あと一步のところで競り勝つ力を身に付けることがチームの勝ちに繋がる」と振り返った。



小学校1年のときに姉に憧れ剣道を始めたという玉野さん
地元開催の三重インターハイで優勝したいと語る斉藤さん

玉野さんは『大丈夫。お前ならできる』という先生の言葉で自信をつけることができた。周りは自分よりも年上の方がほとんどだが、臆せずチャレンジャー精神を持つて思い切り挑みたい」と抱負を語った。

「剣道を通じ、また仲間との切磋琢磨により人として成長できる部」と話す二人。今後の活躍に期待したい。

県大会で初優勝! 西日本大会へ駒進める

皇學館中学校・囲碁将棋部



左から村瀬さん、河村さん、松崎さん、顧問の小林晃先生

小・中学校の(将棋日本一校)を決める文部科学大臣杯第十四回小・中学校将棋団体戦(日本将棋連盟・産経新聞社主催)の三重県大会が五月二十日、津市のサン・ワーク津で開催され、本校囲碁将棋部が見事初優勝! 七月二十六日に大阪で開かれた西日本大会に県代表として出場した。

同大会は生徒三名で編成される団体戦。大将の河村隆雅さん(三年)は「皇學館中学校として三重県大会で優勝できたことを本当に嬉しく思う。入部してまだ一年経たない私だが、活動を通じて様々な人に出会い、将棋のイベントや大会に意欲的に参加して自分たちの力が磨かれることを楽しんできた」と話し、副将の松崎陸さん(二年)は「中学に入るまでほとんど知識のなかった将棋だが、入部してから先輩に教えていただき、ここまで来れた。先輩には感謝の気持ちでいっぱい。まだまだ未熟だが西日本大会出場を誇りに思い、これからも頑張つて良い棋士になりたい」とめざす将来像を語った。先鋒の村瀬天駿さん(二年)は、将棋を始めたのは去年の夏、楽しうに将棋を指す友だちを見たのがきっかけ。こんな素人の私が三重県大会で団体優勝することができたのは、心強いメンバーと練習を重ねたから。人は努力を重ねれば、どんな壁でも乗り越えられると実感した」と将棋を通して得た仲間との絆、学びについて話した。

西日本大会では熊本県代表に一勝したもの、残念ながら代表決定戦に進むことはできなかった。しかし「あと一手」という場面も多く見られ、それぞれが課題を見つけた実りある大会となった。

会に意欲的に参加して自分たちの力が磨かれることを楽しんできた」と話し、副将の松崎陸さん(二年)は「中学に入るまでほとんど知識のなかった将棋だが、入部してから先輩に教えていただき、ここまで来れた。先輩には感謝の気持ちでいっぱい。まだまだ未熟だが西日本大会出場を誇りに思い、これからも頑張つて良い棋士になりたい」とめざす将来像を語った。先鋒の村瀬天駿さん(二年)は、将棋を始めたのは去年の夏、楽しうに将棋を指す友だちを見たのがきっかけ。こんな素人の私が三重県大会で団体優勝することができたのは、心強いメンバーと練習を重ねたから。人は努力を重ねれば、どんな壁でも乗り越えられると実感した」と将棋を通して得た仲間との絆、学びについて話した。

特集 全国大会に挑む 皇學館高校・クラブ活動

この夏、皇學館高校では6つのクラブ、総勢45名が全国大会への出場を決めました。大会に向け、選手、出場者たちが意気込みを語りました。

バドミントン部

テーマは「力戦奮闘」

男子団体・個人 荒 木 那 智（3年8組）

私たちは8月4日から静岡県浜松市で開催されるインターハイに出場します。今年は東海での大会になり、三重県代表、そして東海代表として恥じないようなプレーをしたいと考えています。これまで支えてくださったコーチや先生方、保護者の方々への感謝の気持ちをコートの上で表現したいと思います。高校生活の集大成であり、3年生最後となるこの大会で、自分の持てる力を全て出し悔いを残さないようにします。1、2年生は世代交代後の弾みとなるよう「力戦奮闘」をテーマに部員全員の気持ちを一つにし、最後まで諦めずに頑張ります。



結果で恩返しをしたい

女子団体・個人 山 本 綺 音（3年1組）

私たちは男子と共にインターハイに出場します。女子団体、女子個人とも私にとって最後のインターハイになるので、悔いの残らないように戦いたいです。昨年度の団体戦では一回戦を突破することができました。今年度は去年より良い結果になるように頑張りたいと思います。個人戦ではダブルス、シングルスに出場します。昨年度は思うような結果を残すことができませんでした。一球一球最後まで諦めることなく、一戦でも多く試合ができるようにします。皇學館の生徒として出場する最後の大会に向け、監督やコーチ、家族、学校の先生方など応援して下さる方々への感謝を忘れずに、結果で恩返しができるように全力で挑みたいと思います。



全国制覇を成し遂げたい

女子団体・個人 玉 野 友 香 理（3年1組）

昨年の宮城インターハイに続き、連覇でのインターハイ出場を果たすことができました。個人戦には斉藤さち（2年生）、玉野友香理（3年生）、高宮彩花（3年生）の3名が出場します。



入学当初より目標にしてきた地元インターハイの切符を手にすることができたのも、遠征をはじめ多くの時間を私たちに費やし、熱心にご指導くださった尾上先生、絶えず応援して下さった保護者の方々、日頃から切磋琢磨し励まし合ってきた仲間のおかげであり、この場に立つために力を尽くして下さったすべての方々に、心から感謝しています。

地元インターハイである重圧は、はかり知れませんが一戦一戦を全身全霊で自分と闘い、皇學館高等学校女子剣道部という誇りと責任を持って試合に挑みます。

個人優勝を目指す

男子個人 早 川 明 日 斗（1年6組）

私は伊勢市で開催されるインターハイに出場させていただきます。開催県の代表として出場できることを誇りに、正々堂々と戦うと共に、惜しくも出場を逃された先輩方や団体戦での悔しい思いを胸に、思い切りの良い勝負をしたいと思います。そして、入学以来、稽古に遠征にと精一杯取り組んできた成果を全国のトップレベルの選手にぶつけ、今の自分の力を測りたいと思います。出場する限りは個人優勝を目指します。

剣道部



限界に挑み、限界を超えたい

女子個人 宮 本 や ほ（3年1組）

私にとって最初で最後のインターハイ。やっと掴んだ切符。ずっと目標に掲げ、日々稽古に励んできました。しかし、今大会まで優勝することが出来ず、悔しい気持ちばかりが強くなりました。そのような私に、部活が休みの日にも稽古をつけてくださる山崎先生。落ち込んでいる時に励ましてくれる仲間や家族。そうした周りの支えがあったからこそ、ここまでこられたと思います。感謝の気持ちを忘れず、限界に挑み、そして限界を超えていきたいです。精一杯挑んできます。



三重県勢女子は2年ぶり 宮本やほさんが全日本ジュニアに出場！

9月8日に埼玉県立武道館で開催される全日本ジュニア柔道体重別選手権大会に宮本やほさんが出場する。この大会は東海四県の大会で優勝して出場権を獲得できるもので、宮本さんは一昨年続き2回目の快挙となった。三重県勢でもこの大会に女子が出場するのは2年ぶり、活躍が大いに期待される。

柔道部

仲間の思いと共に

女子個人 瀬 古 蘭 奈（3年2組）

1年生の時、インターハイに出場する先輩の姿に憧れを抱き、以来、私の目標となった憧れの舞台に、前年度初めて立ちました。今年度も周囲の声援に支えられ、何とか優勝し、再び出場権を得ることができました。最後のインターハイです。個人戦ではありますが、今までご指導いただいた先生方や先輩方、励ましあってきた仲間の思いと共に、畳の上に立ち、挑みたいと思います。



地元「三重」の選手として入賞を目指す

男子・棒高跳 田 中 悠 貴（3年5組）

僕が高校3年生を迎える平成30年に三重県でインターハイが開催されることを入学前から知っていました。そのため、入学後は常にこの大会への出場を目標にして、これまで練習を積み重ねてきました。その結果、東海総体4位となり全国への出場権を得ることができました。



また、今大会には陸上競技部から藤本大輝さん(写真左端・走幅跳)、大井悠さん(写真右端・八種競技)も出場しますが、出場するだけで満足するのではなく、地元「三重」の選手として入賞を目指していこうと思います。そして、ここまで陸上を続けることができたのは周りの方々の支えがあったからこそという感謝の気持ちを忘れず、最後まで諦めずにがんばります。

陸上競技部



バレーボール部 男子

7年ぶりの出場、全員バレーで全力を尽くす

私たち男子バレーボール部は、中林先生、坂本先生、井関先生のご指導の下、3年生9人、2年生2人、1年生7人、マネージャー5人で日々練習に励んでいます。少ない練習時間のなか、トレーニングに汗を流し、練習にも様々な工夫を取り入れ、体力と技術の向上に取り組んできました。連休には県外の強豪校と練習試合を行い、自分たちのレベルアップに繋げてきました。個々のバレーに対する意識も学年が上がるにつれて高まり、チーム全体で切磋琢磨し合える環境を作れるようになりました。そして、先生方や応援してくれる保護者の方々の支えもあって、7月26日から伊勢で行われるインターハイ出場切符を7年



ぶりに掴むことができました。インターハイという素晴らしい舞台に立てることに感謝をし、今まで支えてくださった方々への恩返しの気持ちを込めて、チーム全員バレーで全力を尽くして頑張りますので、応援よろしくお願いします。

写真部

学んだことを 今後の作品づくりに生かす

松 田 朋 子（3年7組）

高校入学後に写真部に入部した私がここまで成長できたのは、顧問の佐々木先生の指導をはじめ、周りの方々の協力のおかげだと心から感謝しています。今回の全国高等学校総合文化祭では多様な出品作品を觀賞し、他県の高校生と交流することで、今までの自分にはない新しい写真の見方を発見していきたいと思っています。



向 原 千 裕（3年5組）

この大会では講評会や講演会だけでなく、出品者の交流会や撮影会などが予定されています。全国の高校生の撮った写真が300点余り展示されるということで私が見たことのない興味深い写真がそこにあるかもしれません。この大会を通して多くのことを見て聞いて感じてきたいです。



尾 間 彩 葉（3年8組）

私にとって全国高等学校総合文化祭に参加するのは初めてなのでいろいろなことを学び、経験してきたいと思っています。全国から選ばれた写真を見て、テーマの選び方、題材、構図の決め方などを学びたいです。そしてそれを今後の作品づくりに生かしていきたいと思っています。



全国大会の結果については次号76号にて報告いたします。

保護者対象進路説明会を開催

3年生保護者を対象にした進路説明会を4月21日に、1・2年生保護者を対象にした説明会を6月2日の土曜日午後に開催した。ご多忙中にも関わらず、多くの保護者の皆様に参加していただき、有意義な説明会となった。

3年生保護者対象説明会ではベネッセグループ進研アドの横山宏治氏より「子どもと一緒に進路を考える」との演題で、1年生保護者対象説明会では、河合塾の西山直志氏より「いま高校生が身につけておくべきチカラ」と題して講演をいただいた。最新のデータを元にしたお話は、とても興味深いものであった。

クラスマッチ

7月13日と17日の両日、バレーボールとソフトボール2種目でクラスマッチが行われた。暑い日であったがそれに負けないくらいの熱い声援がグラウンドに、そして体育館に響き渡った。新総務委員長の大東海晴さんは「この2日間、一人ひとりがクラスのために頑張ろうとする姿や、男子は女子のバレーボールを、女子は男子のソフトボールを応援する姿を見て、クラスの中で今まで以上に強い絆が生まれているんだなと思った。普段は見られないような友だちの姿を見ることができ、どのクラスも全体が盛り上がってとても良い雰囲気になったので良かったと思う」と感想を述べた。なお、ソフトボールは3年4組が、バレーボールは2年6組が優勝した。



Active Student



二見浦を日本一楽しく美しい海にしたい 「二見浦ビーチクリーン大作戦」に取り組んで

黒田 結 規 (3年1組)

きっかけは高校入学を控えた平成28年の春。小学校、中学校と9年間過ごした二見浦の海や浜への「恩返し」をテーマに同級生28名と清掃活動を始めました。夏休みにたくさん泳いだり、部活で歯を食いしばりながら走ったり、悩んだときに浜を眺めたり、二見浦には本当にたくさんの夢と思い出が詰まっています。その二見浦の海や浜がこれからも綺麗であってほしいと思い、「二見浦ビーチクリーン大作戦」を始めました。



7月16日の「海の日」に実施された「二見浦ビーチクリーン大作戦」

高い志とチャレンジ精神をもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

今年、7月16日の「海の日」に行った活動で第4回を迎えました。回を重ねるにつれて支援をいただける方や、共に海や浜に「恩返し」をしていただける方も増え、121名の方が参加してくださり、本当に感謝しています。私はこの活動を通して二見浦に「恩返し」をすることが一番の目的ですが、それだけではありません。一つは小さい頃からこのような清掃活動に参加して地域の方とふれあい、たくさんのことを学んでいく中で、地元伊勢の魅力を知ってもらうことです。加えて、ある先生に「ゴミを拾う人はゴミをポイ捨てしない」と教わったことから、子供の頃からこのような清掃活動を経験することで、ゴミのポイ捨てをしない人を増やすことです。

これからもどんなことが起きようと、老若男女皆で手を取りあって活動をしていこうと思います。人間が出したゴミを人間が拾うことで、二見浦が日本一楽しく美しい海になることを目指して、清掃活動を続けていこうと思います。

中 学 校

ともやま公園で1年生が宿泊研修

6月21日(木)～22日(金)、ともやま公園(志摩市)にて1泊2日の宿泊研修を実施した。1日目は英語学習、チームビルディング(TB)、野外炊飯(夕食のカレー作り)にキャンプファイヤー、2日目はシーカヤックを行った。TBとシーカヤックについては志摩自然学校のスタッフのご協力を得るとともに、当日に向けた事前学習の成果もあり、1年生にとっては絆を強める上でまたとない絶好の機会となった。

仲間との声かけや協力が大事

1年A組 深津 弘 季

英語学習ではカレーの作り方やすごろくを楽しみました。チームビルディングでは無言で誕生日の順番に並んだり、フラフープを班で組みになって指一本だけで降ろしたり、順番にくぐったりしました。夕食作りでは得意の火起こしを担当し、白米を一発で上手にたくことができたので、うれしかったです。キャンプファイヤーでは火を囲んでマイムマイムやジャンケン列車をしました。意外と火が

長く燃えていたので、その分楽しめました。シーカヤック体験でも行きたい方向に進んだり、うまく止まったりでき、自分でも驚きました。

今回の宿泊研修で改めて仲間との声かけや協力することの大切さを学ぶことができました。



学んだことを学校生活に生かしたい

1年B組 西 野 今 春

宿泊研修を通して分かったことがいくつかあります。1つ目は協力して助け合うことです。カレー作りでは火を起こしたり、野菜を切ったり、ご飯をたいたりするなど、仲間たちと協力できたからこそあんなに美味しいカレーが作れたのだと



思います。シーカヤック体験も同じです。ペアの2人が協力しないと、

島まで行けません。もとの場所にもどるのもとても難しかったと思います。2つ目は時間を守ることです。集団で行動するためには、「しおり」に書かれた時間を守ることが必要です。3つ目は話を聴くことです。時間や日程をまちがえたり、自分とすべき行動がわからなくなったりしたら、みんなが困ってしまいます。

今回の宿泊研修で学べたことをこれからの学校生活に生かしていきたいと思います。

本校で3名が教育実習



社会科の授業実習を行う皇學館大学の久保遥加さん

本校卒業生による教育実習が6月12日から30日にかけての3週間、行われました。声の震えに緊張感の高まりを感じた初日挨拶に始まり、教科指導案作成などに真面目に取り組み、それ故に悩んで苦しんだ教材研究。千差万別の生徒の反応に、思うままにならない授業展開など、実習なればこそといった場面に遭遇するたびに、「みんな悩んで大きくなるんだ! 頑張れ!」と陰ながらエールを送りました。

恒例の進路講話では大畑綾音さん(椋山女学園大学教育学部)が中学校生活の思い出を中心に、「仲間を大切に。沢山ぶつかるのもいい。一日一日を大切に、様々な経験から何か一つを学び得てほしい。たくさん思い出を作ろう」と。久保遥加さん(皇學館大学文学部)は高校生活を振り返り、「時間のメリハリをつける。授業はしっかり聞く。わからないことは先生や友だちにすぐ相談。授業外の先生ともよい関係を築く。進路は早めに考える」など進路へのアドバイスを。廣出真苗さん(同志社女子大学現代社会学部)は「自由であるからこそ、自己管理がとても大事。自分の選択を間違えないよう色々なものを見て、経験して視野を広げ、将来のビジョンを見つけて」と学生生活について熱く語ってくれました。

限られた期間でしたが、担任した生徒たちから花束や熱いメッセージをプレゼントされ涙ぐんだのは、充実した実習の証。みんなの声援を力に、ぜひ素敵な教員になってください。期待しています。

教諭 岩崎真理

イベントカレンダー

各講座の詳細につきましては本学ホームページにてご確認ください。その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室(0596-22-8635)へお願い致します。

🕒時 📍所 (■本学 ■他) 📄料金 🎯対象 📅予約 🗨問合先

9月

1土 名張市共催 皇學館大学ふるさと講座 名張藤堂家と享保騒動

講師●上野秀治(文学部教授)
🕒14:00～ 📍名張市武道交流館 いきいき多目的ホール
📄無料 🎯一般 📄必要(100名)
📍名張市教育委員会文化生涯学習室 0595-63-7892

8土 月例文化講座 中世・近世の文献資源から見た伊勢神宮の魅力

講師●小林 郁(研究開発推進センター助手)
🕒14:00～ 📍431教室 📄無料 🎯高齢者向・一般
📄不要 📍地域連携推進室 0596-22-8635

15土 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座 第1回「近世文書を読む」

講師●谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)
🕒14:00～ 📍佐川記念神道博物館講義室
📄無料 🎯一般 📄必要(60名)
📍研究開発推進センター 0596-22-6466

22土 研究開発推進センター史料編纂所公開講座 最近の古墳研究について考える

講師●荊木伊行(研究開発推進センター副センター長・教授)
伊勢・伊賀の古墳とヤマト政権
講師●中司照世(元福井県埋蔵文化財センター所長)
🕒14:00～ 📍佐川記念神道博物館講義室
📄無料 🎯一般 📄必要(60名)
📍研究開発推進センター 0596-22-6466

10月

6土 月例文化講座 言語生活からみた伊勢神宮の魅力

講師●齋藤 平(文学部教授)
🕒14:00～ 📍431教室 📄無料 🎯高齢者向・一般
📄不要 📍地域連携推進室 0596-22-8635

12金 皇學館大学・三重県生涯学習センター連携協定事業 NIPPONの原点を学ぶ 三重の魅力発信セミナー 三重県の誕生と府県のかたち

講師●谷口裕信(文学部准教授)
🕒19:00～ 📍三重テラス 📄無料 🎯一般 📄必要
📍三重県生涯学習センター 059-233-1151

近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場●近鉄文化サロン阿倍野

詳細は近鉄文化サロン阿倍野(06-6625-1771)へお問い合わせください。**有料・要予約**

8/25(土) 15:30～

1日・短期講習会 皇室の基礎知識—即位儀礼の概要と歴史—

講師●松本 丘(文学部教授)

9/1(土) 15:30～

1日・短期講習会 『日本書紀』を読む 「垂仁天皇(2)」

講師●大島信生(文学部教授)

9/8(土) 15:30～

『古事記』を読む(仁徳天皇～雄略天皇の段) 「雄略天皇(上)」

講師●白山芳太郎(文学部教授)

9/22(土) 15:30～

神道と仏教—神仏習合と神仏分離— 「鹿兒島藩における神仏分離と廃仏毀釈」

講師●河野 訓(副学長・文学部教授)

9/29(土) 15:30～

1日・短期講習会 『日本書紀』を読む 「垂仁天皇(3)」

講師●大島信生(文学部教授)

10/6(土) 15:30～

1日・短期講習会 『伊勢参宮名所図会』を読む 「膳所から石山寺(1)」

講師●岡野友彦(文学部教授)

10/13(土) 15:30～

『古事記』を読む(雄略天皇後半～推古天皇の段) 「雄略天皇(下)」

講師●白山芳太郎(文学部教授)

人事異動	
昇格	平成30年4月1日付
学生支援部(教務担当)	主事 大谷 千帆
主事	大谷 千帆
(学生支援部教務担当主事)	
学生支援部(教務担当)	主事 大津 政紀
書記	大津 政紀
(学生支援部教務担当書記)	
研究開発推進センター(事務室)	主査 森谷 香里
主査	森谷 香里
(研究開発推進センター事務室書記)	
企画部(広報担当)	主査 森谷 香里
主査	森谷 香里
(企画部広報担当)	
事務嘱託 鈴木 千浩	事務嘱託 鈴木 千浩
(学生支援部学生担当事務嘱託)	
総務部(人事担当)	主幹 中 英司
主幹	中 英司
(学生支援部教職支援担当主幹)	

平成29年度 収支決算報告

学校法人皇學館の平成29年度決算は、平成30年 5月28日(月)開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を公表します。

なお、公式ホームページの大学概要のIR情報「事業報告平成29年度」にて、教育研究機関・学校法人の組織機構・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路(就職)状況及び法人の事業実績、財務の概要説明等を公開しておりますので、併せてご覧ください。

(公式ホームページ <http://www.kogakkan-u.ac.jp>)

① 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度在教育研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

資金収支計算書(法人全体)

平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日				単位：千円
科 目	予 算	決 算	差 異	
●収入の部				
学生生徒等納付金収入	3,872,754	3,868,447	4,306	
手数料収入	73,724	81,471	△7,747	
寄付金収入	125,770	126,219	△449	
補助金収入	627,571	613,891	13,679	
資産売却収入	261	261	0	
付随事業・収益事業収入	40,318	49,826	△9,508	
受取利息・配当金収入	8,933	11,921	△2,988	
雑収入	300,381	305,308	△4,927	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	645,163	762,087	△116,924	
その他の収入	149,699	149,485	214	
資金収入調整勘定	△881,380	△895,139	13,759	
当年度資金収入合計 ①	4,963,194	5,073,780	△110,586	
前年度繰越支払資金	2,280,800	2,280,800		
収入の部合計	7,243,994	7,354,580	△110,586	

【注1】記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
【注2】貸借対照表の注記は省略しています。

② 事業活動収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるもので、学園の経営状況を表し、平成29年度における事業活動収支の均衡状況とその内容を明らかにすることを目的としています。事業活動収支を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分し、企業会計により近い形式となっています。

事業活動収支計算書(法人全体)

平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日				
科 目	予 算	決 算	差 異	
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,872,754	3,868,447	4,306
	手数料	73,724	81,471	△7,747
	寄付金	95,770	95,432	337
	経常費等補助金	622,932	609,252	13,679
	付随事業収入	40,318	46,827	△6,509
	雑収入	300,381	305,308	△4,927
	教育活動収入計	5,005,879	5,006,740	△861
	人件費(退職給与引当金繰入額)	2,864,592	2,846,678	17,913
	教育研究経費(減価償却額)	1,563,336	1,546,684	16,651
	管理経費(減価償却額)	501,198	480,690	20,507
事業活動支出の部	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	4,929,126	4,874,053	55,072
	教育活動収支差額	76,753	132,686	△55,933
教育活動外収支	受取利息・配当金	8,933	11,921	△2,988
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	8,933	11,921	△2,988
	借入金等利息	1,444	1,443	1
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	1,444	1,443	1
	教育活動外収支差額	7,489	10,477	△2,988
	経常収支差額	84,242	143,163	△58,921
特別収支	資産売却差額	261	0	261
	その他の特別収入	45,639	46,177	△538
	特別収入計	45,900	46,177	△277
	資産処分差額	10,088	10,396	△308
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	10,088	10,396	△308
	特別収支差額	35,812	35,781	30
	[予備費]	20,000 ⁽⁰⁾	20,000	
	基本金組入前当年度収支差額	100,054	178,944	△78,890
	基本金組入額合計	△255,224	△260,266	5,042
当年度収支差額				
前年度繰越収支差額				
基本金取崩額				
翌年度繰越収支差額				
[参考]				
事業活動収入計	5,060,712	5,064,838	△4,126	
事業活動支出計(予備費含む)	4,960,658	4,885,893	74,764	

教学振興会 平成29年度 決算報告

ご 挨 拶

学校法人皇學館 理事長 佐 古 一 洸

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

さて、教学振興会につきましては、多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして心から厚く御礼申し上げます。

教学振興会支援事業は平成29年度におきましても建学の精神に基づいた教育・研究活動の振興に邁進して参りました。神宮・神道研究の情報拠点の形成をはじめ、国際交流の推進と日本文化発信人材の育成、地域社会貢献活動と伝統文化継承人材の育成、学生・生徒の修学支援を行い、大学においては学修カリキュラム「伊勢志摩定住自立圏共生学」の第1期生が社会へ巣立つなど、支援事業は着実に実を結び、成果を収めつつあります。これも、ひとえに皆さま方のお力添えによる賜物と感謝申し上げ、更なる本学園への期待に添えるよう、鋭意努力いたす所存でございます。

ここに平成29年度の決算をご報告させていただきます。

今後とも「教学振興会」への温かいご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

教学振興会収支決算書

平成26年 9月 1日～平成30年 3月31日

収入決算額累計(平成26年 9月 1日～平成30年 3月31日迄)	165,948,000円
支出決算額累計(平成27年 4月 1日～平成30年 3月31日迄)	120,882,842円
平成29年度支出決算額(平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日迄)	50,105,180円

●収入の部

区 分	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H26～H29合計	
	寄付件数	金額(円)	寄付件数	金額(円)	寄付件数	金額(円)	寄付件数	金額(円)	金額(円)	金額(円)
宗 教 界	186	28,490,000	258	38,610,000	228	25,690,000	243	25,280,000	118,070,000	
企 業	26	1,360,000	28	1,580,000	27	2,420,000	23	1,300,000	6,660,000	
館 友	275	2,805,000	250	3,030,000	432	4,901,000	451	4,397,000	15,133,000	
尊 の 会 員	219	1,860,000	341	2,500,000	349	2,525,000	305	2,235,000	9,120,000	
高等学校保護者	81	580,000	96	735,000	103	780,000	100	660,000	2,755,000	
中 学 校 保 護 者	34	280,000	38	295,000	36	310,000	26	305,000	1,190,000	
一般(篤志家等)	4	120,000	11	3,205,000	7	390,000	4	45,000	3,760,000	
教 職 員	108	1,935,000	187	2,385,000	214	2,580,000	203	2,360,000	9,260,000	
合 計	933	37,430,000	1,209	52,340,000	1,396	39,596,000	1,355	36,582,000	165,948,000	

※日本私立学校振興・共済事業団 受配者指定寄付金金額を含む。

●支出の部

平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日		
区 分	金額(円)	
①建学の精神を活かした研究活動の振興と教育の質の改善と保証	2,583,437	
②神宮並びに神道研究の情報拠点の形成	2,322,889	
●神宮、神道に関する文献資料の収集整理	2,322,889	
③国際交流の推進と日本文化発信人材の育成	28,146,306	
●学生・生徒の海外留学に対する助成	21,502,506	
●国際交流協定大学等との交流事業に対する助成	5,359,924	
●外国人留学生に対する奨学援助	1,283,876	
④地域社会貢献活動と伝統文化継承人材の育成	5,951,147	
●学生・生徒の社会貢献活動に対する助成	510,750	
●「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムによる地域貢献人材の育成	4,063,383	
●地域社会貢献組織の整備に対する助成	1,377,014	
⑤学生・生徒の修学支援	11,101,401	
●学生・生徒に対する奨学援助	8,000,000	
●学修(習)奨励や課外活動等への助成	3,101,401	
合 計	50,105,180	

皇學館旋風を再び！ 第30回 出雲駅伝 応援ガイド

10/8月 体育の日 13:05～15:15頃 出雲大社正面鳥居前 → 出雲ドーム前 6区間 45.1km

第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走に皇學館大学駅伝競走部が初出場します。昨年度の全日本大学駅伝で見せた粘りを出雲の地においても発揮し、チーム一丸となって戦いますので、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

緊張感を味方に全力で挑む



駅伝競走部監督
日 比 勝 俊

日頃より本学駅伝競走部の活動にご支援ご協力頂き誠にありがとうございます。
10月8日(月)に開催されます、第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走に皇學館大学が初出場致します。昨年は全日本大学駅伝へ初出場を果たし、非関東校では初めて、初出場校として最後まで襷をつなぎ切りましたが、

その勢いで臨んだ年末の東海学生駅伝で2位に大差をつけて優勝し、今大会への出場権を勝ち取りました。
初めての出雲路ですが、昨年の全日本同様、自分たちのできる最高の準備をして、緊張感を味方に全力で挑みます。11月の全日本大学駅伝と併せて、みなさんの温かいご声援とともに、『チーム皇學館』としてパワーを結集し、大学駅伝界に新風を吹かせましょう。

沿道でのご声援は、各区間の応援ポイントで！

各区間に皇學館大学の「応援ポイント」を設けます(詳しくは本学公式ホームページに9月上旬掲載予定)。各ポイントには本学のスタッフが待機していますので、ぜひお声掛けください。のぼりをお渡しますので、ともに応援しましょう！

皇學館大学



駅伝競走部メンバー



鈴木 翔也
(教育1年)



市川 駿希
(教育1年)



松原 隼斗
(国文1年)



金森 拳之介
(現日2年)



上村 直也
(教育2年)



平野 恵大
(現日3年)



新美 健
(教育3年)



山下 大地
(教育4年)



チーム力を高め、12位以内をめざす

駅伝競走部主将 上村 一真(教育4年)

昨年の東海学生駅伝では一人ひとりが優勝という目標に向かって練習に取り組む、他大学に負けない総合力を得たことによって優勝、そして、出雲への出場権を獲得することができました。
本戦に臨むにあたっては、夏場の合宿等を通して心身の強化を図るとともに、昨年以上にチーム力を高め備えていきたいとします。



本塚 舞
(神道1年)

梶野 恵加
(教育2年)



緒方 香津貴
(教育1年)

松下 日花里
(教育2年)



加藤 元紀
(教育1年)



田中 翔大
(国史1年)



川瀬 翔矢
(現日2年)



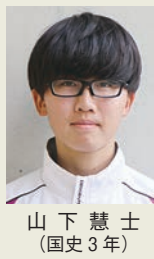
平山 寛人
(教育2年)



田邊 隼都
(国史2年)



大河内 雄登
(現日3年)



山下 慧士
(国史3年)



齊藤 希龍
(教育1年)



原田 翼
(コミュ1年)



桑山 楓矢
(現日2年)



宮城 響
(教育2年)



安岡 里哉
(コミュ2年)



奥野 夏希
(現日3年)



金谷 智顕
(教育3年)

応援に際してのお願い

- スタート地点(大社：神門通り)は混雑が予想されますので、応援の方は交通ルールを守り、係員の案内に従ってください。
- フィニッシュ地点(出雲ドーム)で応援される方は、公園内の駐車場が満車の場合、係員の案内に従って周辺の臨時駐車場に車をとめてください。
- スタート・フィニッシュ地点には、応援用ののぼり旗の掲出禁止区域があります。また、のぼりをガードレールなどの沿道公共物にくくりつけることは道路交通法違反となります。のぼりは手で持って応援してください。
- 応援ポイントはあらかじめ許可をいただいている場所では

ありませんので、まわりの皆様のご迷惑にならないようご配慮をお願いします。また、周辺に無断駐車、違法駐車をされませぬよう、よろしくお願いします。

●本大会は、「ドローン・ラジコン等無線機器」による録画・撮影等の行為が禁止されています。



11月4日(日)開催 全日本大学駅伝に2年連続出場決定！

6月10日(日)愛知県半田市・半田運動公園陸上競技場で行われた第50回全日本大学駅伝対校選手権東海地区選考会において、2位ながら2年連続の出場権を獲得しました。

本予選会は「ぶっちぎりのトップ通過。合計タイムで大会記録更新！」を目標に、全てのレースで先頭を先導するレースを目指しました。1・2組と順当に走った本学は2位に1分

50秒以上の差をつけ、大会記録更新も可能かと思われました。しかし、その後、愛工大に23秒差をつけられ、逆転負けを喫しました。目標としていた大会記録更新も達成できず、とても悔やまれる大会となりました。ただ、これまでのチーム総合記録を約6分も塗り替え

る好タイムと積極果敢なレース展開は確実に他を圧倒していました。この結果、本年は10月の出雲駅伝と併せ、学生2大駅伝への出場が決まりました。両駅伝での快走を目指し、強化に励みますので、今後とも温かいご声援をよろしくお願いいたします。